

もくじ

- ・ ヴェニスの上うにん

ヴェニスの 上うにん

げんさく： ウィリアム・シェイクスピア

イラスト： しらい ゆうこ

へんしゅう： イエローバードプロジェクト

イタリアのとし・ヴェニスは
『みずのみやこ』とよばれ、
ふるくからみなとまちとしてさかえていました。
このヴェニスに、『アントニオ』という、
ぼうえきしょうのおとこがいました。
アントニオはしょうばいじょうずで、
ひとがらもよく、だれからもあいされる
おとこでした。

あるひ、アントニオのもとに、ゆうじんの
せいねん『バッサニオ』がたずねてきました。

「こんにちは、アントニオ。じつはあなたに、
おねがいがあってきました」

「なんだい、バッサニオ。きみのたのみだったら、
なんだってきいてあげるさ」

「じつは、ぼくは『ポーシャ』という
きぞくのむすめと、
けっこんをかんがえています。
そのためのけっこんしきんを
かしてほしいのです」

「なるほど。いくらひつようなんだ」

「はい。3000ダカットです」



「3000 ダカットか・・・それは
かなりの たいきんだな」

「やっぱり、むりですよね・・・」

「いや まで。たしかに いま てもとには ないが、
そのかねを かしてくれそうなものに、
こころあたりがある」

「え、ほんとうですか！」

「ああ。だが、あいつは かなりの くせものだ。
バッサニオ、わたしと いっしょに きてくれ」

ふたりが むかったのは、『シャイロック』という
おとこの やしきでした。

シャイロックは まちの しょうにんなど
かねをかし、たかい りしをとる
こうりがして、アントニオとは なかがわるく、
よく いいあそいをしていました。

「・・・なるほど。いいだろう。

3000 ダカットを いますぐ かしてやろう。
それも いっさい りしは いらん」

なぜか シャイロックは、
あっさりと へんじをしました。

